

# 西條直筆の原稿大切に

## ひびけ 校歌

県西の小中学校から

### 境町立

### 境小学校

江戸時代に関宿藩の城下町として栄えた境町。町立境小（境町）は、1873（明治6）年4月に藩の茶会所を校舎にして開校した。83年に男女別に分かれ、境女子小となり、

その後、87年に尋常小、92年に男子校となった。95年には高等科を設置した尋常小、1941年に国民学校、47年には境中学校と分かれた。今年、創立150周年を迎え11月に記念式典が開かれる。

開校から80年以上、校歌はなかったが、56年に約1000人の児童と教職員約20人が「全校集会や儀式、運動会、遠足で歌うことができる校歌を」と切望。1年間、児童会と職員会が節約貯金を行い、作詞・作曲の費用6万5千円を捻出。現在では約80万円に相当する金額という。下館町（現筑西市）に疎開経験のあ

西條八十作詞、平井康三郎作曲（1957年）

一、ゆたかに流れる 大利根に／広い心を 教えられ／むらさきそびえる 筑波ねに／高い理想を 雄々しく仰ぎ／のびゆくわれら ああ、境の／希望もえたつ 小学生 二、きたえるからだは たくましく／みがく知識は 新しく／穂さきをそろえた 稲のよう／みんな仲よく 力を合わせ／のびゆくわれら ああ、境の／希望もえたつ 小学生 三、栄える未来の 日本を／になうこの肩 この腕／郷土のほまれを 輝かす／その日おもえば 心も勇み／のびゆくわれら ああ、境の／希望もえたつ 小学生

る詩人の西條八十に作詞、作曲家の平井康三郎に作曲を依頼し、57年1月5日に約3万円を費やして校歌発表会を開催。1月7日に校歌が制定された。

同校には、歌詞が記された西條八十直筆の原稿が大切に保管されている。原稿には、

校歌1番の「大利根」を「利根川」にすべきか、校歌2番の「稲のよう」を「稲のよに」、校歌3番の「心も勇み」を「勇む胸に」にすべきか、作曲担当の平井に提案。平井の意見が尊重された歌詞に修正された。6年の亀倉菜々香さん（12）は「歌詞の『希望もえたつ小学生』というフレーズが好き。毎日、元気をもらっている」と笑顔。同じく6年生の永塚煌太君（11）と吉田大晴君（11）は「歴史ある校歌を卒業後も思い出として大切にしたい」と話した。



（小室雅一）  
（随時掲載）

歌碑の前で笑顔  
を見せる児童と  
石井俊之校長  
（左端）ら＝境町